

高等学校教員の「通級による指導」に対する意識と理解

－見学経験と特別支援教育の専門性の観点から－

○土谷 充章
(大分県立爽風館高等学校)

衛藤 裕司
(大分大学教育学部)

KEY WORDS: 高等学校, 通級による指導, 教員

I. 目的

平成 30(2018)年 4 月から学校教育法施行規則の一部を改正する省令が施行され、「通級による指導」が高等学校で正式に開始された。そして、通級による指導により修得した単位は、卒業のための必要単位に、年間 7 単位を超えない範囲で含めることができるようになった。しかし、現実的に、①「通級による指導」の単位を必修教科・科目及び総合的な学習の時間に替えること、②一部の授業について、各教科の内容を取り扱いながら受けた場合の教科の単位認定、③通学圏が広域になる高等学校における他校通級の際の単位認定等、未だ様々な課題がある。これらの課題をどのように解決していくのか、体制的な問題がある他、多くの高等学校教員にとって、「通級による指導」が未知のものであるため、理解啓発を校内で進めていくことも重要である。

そこで本調査では、「通級による指導」を実施している A 県の完全単位制の高等学校において勤務している教員を対象に質問紙調査を行い、特に、自立活動の授業を自ら見学に来た教員とそうでなかった教員について、特別支援学校勤務経験の有無を中心に「通級による指導の意識と理解」について調査を行う。

II. 方法

1. 調査対象

「通級による指導」を実施している A 県の完全単位制の高等学校に勤務している教員 57 名であった。各教員には研究の目的が知らされ、倫理的配慮についての説明を口頭で行い、了解した教員のみ回収した。なお、本研究発表に関しては対象教員、及び学校長の承認を得た。

調査対象数は 57 人、回収数は 40 人であり、配布総数に対する回収率は 70.2%であった。

2. 質問紙

質問紙は、以下の内容の全 29 項目で構成されていた

- 1) 教員自身について (9 項目)
- 2) 「通級による指導」について (8 項目)
- 3) 教員の生徒の理解 (12 項目)

3. 手続き及び結果の分析方法

手続きは以下の通りであった。

- 1) 対象校の教員に質問紙を手渡し、記入が依頼された。
- 2) 調査期間は 2020 年 10 月の約 1 カ月間であった。回収後、①「通級による指導」についての項目を「知っている」と「知らない」と「どちらとも言えない」の 3 つに分類し、割合を算出した。
- ②「通級による指導」の見学の経験の有無で分け、割合を算出した。
- ③また、担当者の特別支援学校勤務経験の有無に分類し、割合を算出した。

III. 結果

Table に「通級による指導」の授業見学経験者の特別支援

学校勤務経験別割合についての結果を示した。

「自立活動を知っている」割合は、授業見学ありで特別支援学校勤務経験ありは 76.9%、勤務経験なしは 13.3%、授業見学なしで勤務経験ありは 100%、勤務経験なしは 0%であった。「自立活動を知っている中で自立活動の内容を知っている」割合は、授業見学ありで勤務経験ありは 70.0%、勤務経験なしは 100%、授業見学なしで勤務経験ありは 60.0%、勤務経験なしは 0%であった。「授業の補講的な内容はできないことを知っている」割合は、授業見学ありで特別支援学校勤務経験ありは 84.6%、勤務経験なしは 40.0%、授業見学なしで勤務経験ありは 60.0%、勤務経験なしは 28.6%であった。「文章評価で行うことを知っている」割合は、授業見学ありで特別支援学校勤務経験ありは 76.9%、勤務経験なしは 46.7%、授業見学なしで勤務経験ありは 60.0%、勤務経験なしは 28.6%であった。「特別支援学校教諭免許状は必要ない」割合は、授業見学ありで特別支援学校勤務経験ありは 38.5%、勤務経験なしは 6.7%、授業見学なしで勤務経験ありは 40.0%、勤務経験なしは 28.6%であった。「個別の指導計画を知っている」割合は、授業見学ありで特別支援学校勤務経験ありは 100%、勤務経験なしは 13.3%、授業見学なしで勤務経験ありは 100%、勤務経験なしは 28.6%であった。また、「個別の指導計画を作成した経験がある」割合は、授業見学ありで特別支援学校勤務経験ありは 84.6%、勤務経験なしは 0%、授業見学なしで勤務経験ありは 80.0%、勤務経験なしは 0%であった。

IV. 考察

本研究では「通級による指導」を実施している完全単位制の高等学校に勤務する教員について、「通級による指導」や自立活動についての特別支援教育の専門性について意識・理解を調査した。調査に回答した教員の約 70%が「通級による指導」の授業を見学に来ており、教員の約 45%が特別支援学校に勤務経験があるという実態があった。その中でも特別支援学校教諭免許状を持っている教員が全体の約 3 分の 1 を占め、このことから、教員の特別支援教育の専門性が高いほど、授業の見学の有無にかかわらず、「通級による指導」に関する知識があることがわかった。

一方、特別支援教育の専門性が高くない教員は、「通級による指導」への関心が低く、見学にほとんど来ていなかった。

今後、各都道府県において「通級による指導」を実施する高等学校が増加していくことが予想されるが、それに対応する担当教員の専門性の向上はもとより、生徒一人一人に関わる教員全体の理解と専門性がより必要となる。教員の専門性の程度により、自立活動が必要な生徒への影響に違いが出る可能性がある。

(TSUCHIYA Mitsuaki, ETO Hiroshi)

Table 「通級による指導」についての授業見学経験者の特別支援学校勤務経験別割合

授業見学の 有無	特別支援学校勤務経験の有無	1	2	3	4	5	6	7
		自立活動 知っている	(自立活動を知っている人)内容を 知っている	授業の補習 できない	文章評価 知っている	特支免許必 要ない	個別の指導 計画	個別の指導 計画作成経 験ある
授業見学あり	特別支援学校勤務経験あり	76.9%	70.0%	84.6%	76.9%	38.5%	100.0%	84.6%
	特別支援学校勤務経験なし	13.3%	100.0%	40.0%	46.7%	6.7%	13.3%	0.0%
授業見学なし	特別支援学校勤務経験あり	100.0%	60.0%	60.0%	60.0%	40.0%	100.0%	80.0%
	特別支援学校勤務経験なし	0.0%	0.0%	28.6%	28.6%	28.6%	28.6%	0.0%